

バイオマスタウン構想分析DB

[【リンク】葛城市バイオマスタウン構想](#)

公表回	公表年月日	構想見直し		都道府県名	市町村名	人口	面積
		公表回	公表年月日			(人)	(km ²)
40	2010.2.26			奈良県	葛城市	36,199	34
構想の要約		葛城市は、生産地・消費地が共存している特色を生かし、地域のバイオマス資源である生ごみ・剪定枝葉・農作物残さ・牛ふん尿等のたい肥化、廃食用油の回収・利活用によるバイオディーゼル燃料製造等の取組を進めることで地域のバイオマス利活用を推進する。					
構想に盛り込まれた事業		1. たい肥生成事業 2. バイオディーゼル燃料製造事業					
バイオマス利活用目標		添付別紙参照					
バイオマスタウン構想概要図		添付別紙参照					

利用するバイオマス				
廃棄物系バイオマス		未利用バイオマス		資源作物
家畜排せつ物	○	稲わら・もみがらなど	○	資源作物
農業系廃棄物(廃菌床など)	○	野菜等非食部		
食品廃棄物	○	間伐材・林地残材		
廃食用油	○	果樹剪定枝		
水産加工残さ		竹材		
製材工場等残材		その他()		
建設発生木材				
街路樹・公園・家庭剪定枝、刈草	○			
古紙・廃棄紙				
下水汚泥など				
その他()				

利用するバイオマス変換技術			
マテリアル利用のための変換技術		エネルギー利用のための変換技術	
堆肥化(土壌改良材・肥料を含む)	○	バイオガス化(メタン発酵)	
飼料化		直接燃焼	
バイオマスプラスチック製造		ガス化	
その他()		炭化	
		固形燃料化(チップ・ペレット・RDFなど)	
		バイオディーゼル燃料化	○
		バイオエタノール化	
		その他()	

バイオマスタウン実現に向けた取組の進捗状況	
記入年月日	記事
2010.5.11	2010.2.26バイオマスタウン構想公表(JORA協力。BTアドバイザー研修地)

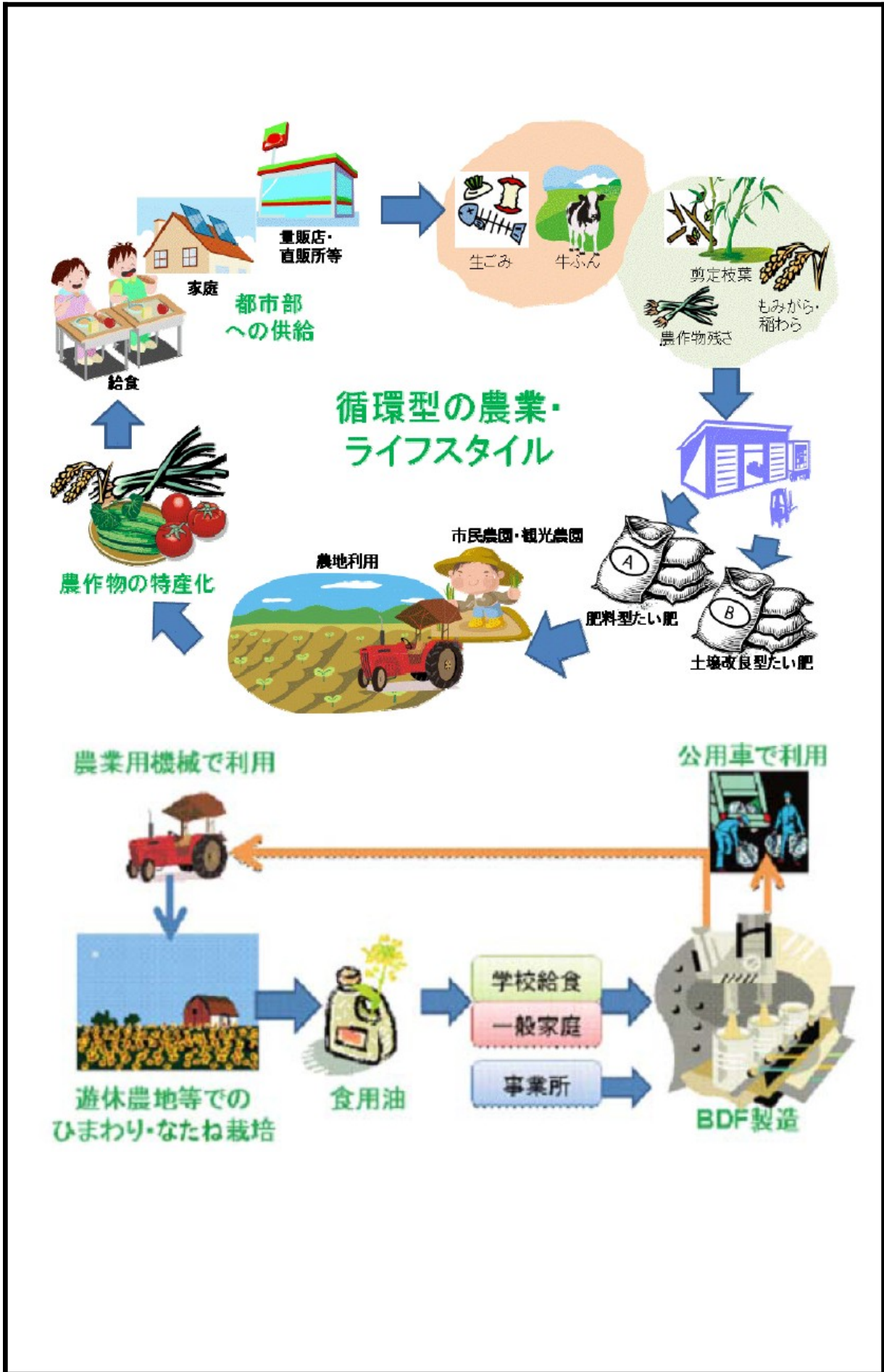
実現した事業	添付別紙参照
--------	--------

バイオマス利活用目標
(バイオマスタウン構想書からコピー)

バイオマス		賦存量 (t/年)		変換・処理方法	仕向量 (t/年)		利用・販売	利用率 %
		重量	炭素換算		重量	炭素換算		
(廃棄物系バイオマス)		22,233	1,336		19,784	1,211		90.6
家畜 排せつ物	乳用牛	12,450	743	たい肥化	12,450	743	たい肥	100.0
	肉用牛	195	12		195	12		100.0
	採卵鶏	4,688	280		4,688	280		100.0
食品 廃棄物	家庭系	3,040	134	たい肥化	1,216	54	たい肥	40.3
	事業系	994	44		397	18		40.9
	給食センター	8	0		8	0		100.0
農作物 残さ	ねぎ・菊等	620	51	たい肥化	620	51	たい肥	100.0
剪定枝葉 /刈草	公園・街路	200	45	たい肥化	200	45	たい肥	100.0
廃食用油	家庭	33	23	BDF化	5	4	BDF	17.4
	給食センター	5	4	BDF化	5	4	BDF	100.0
(未利用バイオマス)		5,246	1,483		2,871	822		55.4
もみがら		821	235	たい肥化	821	235	たい肥	100.0
稲わら		4,099	1,174	たい肥化	2,050	587	たい肥	50.0
麦わら		18	5	農地へ すきこみ	0	0	なし	0.0
林地残材		308	69	森林に放置	0	0	なし	0.0

バイオマスタウン構想概要図

(バイオマスタウン構想書からコピー)



実現した事業(その1)

事業の名称	
事業者名	
事業所名	
住所(施設の所在地)	
利用するバイオマス	
利用する変換技術	

事業の概要	<p>添付別紙(パンフレット等)参照</p> <p>(事業形態、事業構成メンバー、出資比率、事業開始時期、施設の概要、プラントメーカー、建設業者、イニシャルコスト、ランニングコスト、原料単価、製品単価、経営状況、事業運営の課題、成功・失敗要因など記入)</p>
-------	--